

1 学校教育目標

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎やる気いっぱい やさしさいっぱい やりとりいっぱい 中川東小 ○子供たちにとって大好きな学校、未来に亘って居場所となる学校 ○教師にとってやりがいをもって教育に邁進する学校 ○保護者や地域の方々にとって誇りに思う学校
○児童・生徒像	◎やさしく かしこく たくましい子 ○誰とでも仲良く分け隔てなく接する子 ○よく考え、すすんで学ぶ子 ○心身を鍛え、様々なことに挑戦する子
○教師像	◎子供たちを愛し、子供たちを伸ばし、教育への情熱を燃やす教師 ○常に子供の心の傍にいて、一人一人の子供のよさや可能性を最大限に伸ばす教師 ○「教師は授業が命」と授業づくりに熱心に取り組む教師 ○豊かな感性としなやかな対応力をもち、人間味あふれた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

- 児童について 素直で優しい児童が多い。人とかかわる活動を楽しんで行うことができる。また、与えられた課題には一生懸命に取り組む姿が多く見られる。さらに、自ら課題を見つけ解決していく力を育てていきたい。
- 教師について 若手教員と若手を育てるベテラン教員とが共に「チーム中川東」として、児童の視点を大切にされた教育活動を推進している。常に児童と共にある教師集団であり、「教師は授業が命」を合言葉に授業力向上に切磋琢磨している。
- 保護者・地域について 地域の温かさに包まれている学校である。「PTA」「開かれた学校づくり協議会」等を中心に、積極的に教育活動に協力いただいている。令和元年度の創立40周年記念事業の大成功が、学校・保護者・地域の一体感をより一層強くしている。

[前年度の成果と課題]

- 教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る。
 全校的に学習意欲の向上が見られ、どの学級も落ち着いて学習に向かっている。教室に「分かりたい!」「できるようになりたい!」という意欲があふれている。授業の充実・個に応じた指導・家庭学習の徹底を学力向上のトライアングルと掲げ、徹底して継続してきたことが実を結んでいると捉えたい。区学力調査では目標通過率86.3%（昨年度比+1.4%・一昨年度比+7.7%）と変遷し、数値の上からも学力向上の成果を感じることができる。校内研究「算数」における地道な研究実践により、学ぶことを楽しむ子が増えてきた。永年力を入れてきた発表力に加えて、アドリブ力と称する力も伸びてきている。引き続き基礎基本の定着に力を注ぎながら、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努めていく。

○児童が安心して学べる教育環境を整える。

「一人一人を大切にする教育」は本校の教育方針の根幹である。令和5年度も力を入れて取り組んできた。特に人とかかわる楽しさを存分に味わうことが生きていく力になると考え、学校行事・集会活動・縦割り班活動に力を入れてきた。制限の解かれた昨年度は、運動会・持久走記録会・展覧会等教育活動が充実し、子供たちの達成感や満足感につながっていた。大きな成果である。学校生活を楽しいと思う児童が大変多い。不登校も依然少ない。いじめの早期発見・早期解決にも努め、いじめ解決率は100%である。引き続きいじめを絶対に許さない校風を維持していく。全校的な自己肯定感の高まりを礎に、学校が子供たちの居場所であり高め合える場となるよう、引き続き充実した教育活動を力強く展開していく。

○保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

昨年度は、児童の活躍する姿を保護者の方々にたくさん見せることのできた年であった。その成果あり、保護者とのコミュニケーションが深まり、心の通った連携が築かれていることを手ごたえとして感じることができる。学校行事ごとに集める保護者アンケートの回収率は高く、温かく協力的なメッセージが多く寄せられた。それらをHPで還元することもできた。双方向のコミュニケーションで、「共に育てていく」という土壌を耕し、保護者・地域と心をつなげた学校経営を行っていきたいと考える。「開かれた学校づくり協議会」による「わんぱく会」、PTAによる「きらり祭」の復活も、学校生活に活気を取り戻し、地域との連携をより強化するものとなった。今後ともさらなる連携を深めていきたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン ～教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る～	○	○	○	○	○
2	児童が安心して学べる教育環境を整える。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○
4						

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン				
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
児童の学力向上を図る。	令和6年度区学力調査 目標通過率80%以上 2月実施の定着度確認テスト で目標値を通過する対象児童 80%以上	区学力調査 目標通過率 82.0% 昨年度比 -4.3% 定着度確認テスト 目標通過率 84.6%	数値的な伸びは横ばい傾向。学習意欲の高まりは顕著である。以下取組の徹底した継続が成果と考える。引き続き、基礎基本の定着を図りながら、主体的な学び手を育てていく。	○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	校内研究による 教員の授業 力向上	全教員・ 全児童 算数	研究授 業(6回) 研究発 表会(「開 かれた学 校づくり 協議会」・ 近隣小学 校へ)	学力向上に直結する教員の 授業力向上を図る。 ・「主体的・対話的で深い学 び」に向けた授業改善 ・話し合い・交流で自分の考え を深める授業展開 ・解き方を相手に分かりや すく説明する力の育成 ・書く力の育成(全国学力) 週1回100文字作文	児童アンケート 教員アンケート 全国学力調査 都・区学力調査	・R6全国学力調 査にて記述式 無答率0% ・区学力調査に て目標通過率 80%以上	全国学力調査 平均正答率 60% 昨年度比 -8% 記述式無答率 7% 区学力調査 目標通過率 82.0% 昨年度比 -4.3% 一昨年度比-2.9%	授業後「楽しかった」 「分かった」という 声が多く聞かれるよ うになった。校内研 究で取り組んだ算数 科において顕著。一 方国語では読解力が 課題。多読・速読の 力をつけさせたい。	○
継続	ICT機器の 活用	全学年 全教科	毎日 (家庭 学習も 含む。) 通年	ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びの視点 からの授業改善を行う。 ・双方向型の一斉授業充実 ・リアルタイムの考え共有 ・調べ学習の充実 ・AIドリルの活用 (個に応じた支援)	児童アンケート 教員アンケート タイピングテスト	・1日1回タブ レットを用い た授業を実施 した教員 90%以上 ・発達段階に応 じた家庭への 持ち帰り 週2~3回 毎日	1日1回タブレットを 用いた授業実施率 100% 家庭への持ち帰り 毎日・週末は点検 AIドリルの活用 タイピング キーボー島に挑戦	第1学年も含め全校 的に、ICT機器の活用 が進んでいる。AIド リルの活用には学級 差が生じる傾向あ り。AIドリルと学力 向上の相関性を検証 していくことが、今 後の課題である。	○
継続	読書環境の 充実	全学年 国語 総合等	年3回の 読書月 間 通年	読書環境の充実を図り、本に すぐ手を伸ばす子を育てる。 ・国語関連図書の充実 ・「図書館を使った調べる 学習コンクール」への 応募 ・ビブリオバトルの実施 ・本の展示を中心に据えた 教室環境 ・速読・多読の勧め	読書量調査 コンクールへの 応募数	・読書量調査で 目標を達成 する児童 90%以上	読書月間 目標達成児童 60% (昨年度比±0%) 「調べる学習コンク ール」への応募数 194点	学力は読書から。今 後も「本にすぐ手を 伸ばす子」を育てる べく、手だてを講じ ていく。学校図書館 SVを活用し、本の世 界を広げた。次年度 は「学校図書館利活 用推進校」を希望。	○

継続	家庭学習の徹底	全学年 主に国語と算数 自主学習（2年生以上）	毎日 キャンペーン 年10回	授業の充実・個に応じた指導・家庭学習の徹底は学力向上のトライアングル。より一層の家庭学習の徹底を図り、学力向上につなげる。 ・年10回の「家庭学習キャンペーン」の実施 ・自主学習の取り組み強化 児童・保護者の意識向上 ・自学ノートコンクール	宿題提出状況調査 年3回 自学ノートの点検・相互評価	・宿題提出率 100% ・自主学習提出率 90% ・学校評価アンケート 肯定的回答 90%以上	宿題提出率 90.1% (+1.0%) 自主学習提出率 83.9% (+16.9%) 学校評価アンケート 肯定的回答 87.2% (-3.4%)	「徹底して継続」を掲げて取り組んできた。組織だった取組が功を奏している。ごく少数の保護者にもご理解いただけるよう説明をしていく。より「自主的な学び」へと進化を。	○
継続	花丸教室（放課後補習教室）	全学年 目標値を達成していない児童 正答率 75%未満 国語と算数	毎週 火・木曜日 放課後 30分間	一人一人のつまずきに応じた個別指導を徹底し、苦手意識の早期解消を図り学習意欲を喚起する。 ・全教員による全校体制 ・教材は、プリント・ページックドリル・A I ドリル等を使用 ・学力ポートフォリオによる指導内容の精選	定着度確認テスト（2月実施） 教員自己評価アンケート	・定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 80%以上 ・教員自己評価 肯定的回答 85%以上	定着度確認テスト 84.6% 教員自己評価（肯定） 個別の課題 96% 分かるまで 97% 授業改善へ 80%	つまずきに応じた個別指導を徹底した。花丸教室なくして学力の底上げなし。外部人材も活用し、昨年度の課題に対応。より「個別最適な学び」を目指して、回数も確保していく。	○
継続	パワーアップタイム（朝学習）	全学年 国語算数	時程を変更予定	反復練習により学習内容の基礎基本の定着を図る。 ・教材を検討中 ・A I ドリルとの関連 ・主に担任と副担任で行う。	毎回のドリルの自己採点・記録	・毎回のドリルの正答率 85%以上	毎回のミニテスト等 各学級 80~100%	キュビナを活用している学級が増えてきた。日の並びの関係で、火曜日が朝会になりパワーアップタイムを実施できないことが多かった。次年度は、回数確保に努めたい。	△

重点的な取組事項－２ 児童が安心して学べる教育環境を整える。					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童にとって安全・安心な学校生活を充実する。		学校評価アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的回答 90%以上	各項目 90%を超える肯定的評価 心を育てる 97.4% 施設整備 94.4%	一人一人が主役となる教育活動を展開できた。人とかかわる活動をふんだんに行った。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
子供の心を育てる 教育活動の充実	「生活指導・特別活動に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の徹底 ・道徳教育の一層の充実 ・「人とかかわる活動」の意図的・組織的展開 ・縦割り班活動の充実 ・気持ちのよい挨拶の徹底 	97.4%の高い肯定的評価 その内A評価が 80.3%と保護者からの最も高い評価を得る。伸び率も高い。(＋8.1%) 人権月間における取組の充実 人権標語の作成・展示・発表	運動会・音楽会等工夫を凝らした学教行事が共感を得ている。「本気と感動」というアピールが届いているとの確信をもつ。	◎
いじめのない 学校生活の充実	いじめ解決率 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない校風醸成 ・いじめの起こらない学年・学級経営の展開 ・早期発見・早期解決 ・HyperQ-U 検査の活用 (2回) 	86.7%の肯定的評価 いじめ解決率 100% いじめ相談箱活用件数 0 件 HyperQ-U 検査結果の活用 (2回) 学級生活満足群 57.2% 要支援群 5名	全学級どのようなささいなできごとでも、児童の声には耳を傾け対応してきた。低学年保護者へのより丁寧な説明が必要である。	○
安全・安心な 学校の整備	「学校施設の安全に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検の徹底 ・花があふれる環境づくり ・学習成果の掲示の充実 	94.4%の肯定的評価 主事による環境整備の充実 (校内に校庭に咲く花々を) 毎月の安全点検の徹底 創立 40 周年時の壁画撤去 (皆に惜しまれつつ)	多くの人の思いと手により、教育環境が整っている。学習掲示もその一つ。それらが頻繁に替わるよう今後も努めていく。	○

重点的な取組事項－3 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、共に児童を育む教育活動を充実する。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	肯定的評価 保護者連携 97.0% (+3.8%) 地域連携 93.6% (+0.8%)	連携場面が増えるに伴い、肯定的評価が伸びている。双方向のコミュニケーションが密。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との 共育体制の確立	学校公開参観率 85%以上 学校行事参観率 95%以上 登校見守り参加率 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の内容充実 通信・HP・H&Sによる情報発信の充実 感想アンケートによる双方向の情報共有 	参観率 運動会や音楽会 ほぼ 100% 年間 10 回の授業参観 学校評価アンケート回収率 78% H&S 登録率 ほぼ 100% 見守りへの参加率	学校行事参観率は非常に高く、保護者の意識の高さが窺える。一方授業参観率は土曜参観の回数が減ったことが影響した。要検討。	○
「開かれた学校づくり協議会」を中心とした地域との 連携強化	「家庭や地域との連携に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 創立 45 周年の歩みの共有 協議会内におけるコミュニケーションの充実 避難所開設・運営における協力体制の強化 	「開かれた学校づくり協議会」を中心とした地域との連携 肯定的評価 93.6% 昨年度比 + 0.8% 一昨年度比 + 7.6% 一昨昨年度比 + 16.4%	創立 45 周年が地域のご協力も得て、心に残る行事となった。「わんぱく会」も定着の兆し。避難所開設も絶大なる協力体制の下、実施。	◎
子供の夢を育む 周辺教育施設との 連携強化	「幼保小中高との連携に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> こども園・保育園との日常的交流の充実 小中連携の強化（学びのスタイルや自学の統一） 足立東高校との連携復活（行事参加・学習支援等） 	こども園との交流が活発に 給食（1年）等 教員間の交流はより密に 小中連携に新しい風 組織改編と協議の活性化 足立東高校との連携も徐々に きらり祭へのご招待 等	各教育施設との連携が活性化し、縦 18 年間の教育活動が見通せるようになってきた。より密な情報交換を行うことで、連携を強化していく。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題①】・国語における通過率が77.9%であり、算数の86.0%と比べ教科による差が生じた。(2教科平均は82.0%である。)算数は校内研究による授業改善が進んだと捉えられる。一方、国語は読み解く力の育成が急務である。速く正しく読める力をつけたい。

【対策①】・国語の授業改善に努め、「読むこと」が楽しくなる、読まざるを得ない授業展開に転換していく。

・読書環境を整え、多読を推進する。新しく出会う文章を読み解くことに怯まない児童に鍛えていく。

・「読むこと」が「書くこと」につながり、児童の思考が深まるような単元構成を考え、授業を展開していく。

【課題②】・第2学年の国語の通過率は69.6%、第4学年の国語の通過率は70.8%である。両学年とも領域別では、「言葉・情報・言語文化」の領域において、習得の弱さが見られる。個に応じた習熟の必要性がある。

【対策②】・短い時間を活用し(授業内の短時間・パワーアップタイム・補習等)、徹底して繰り返し習熟を図る場を設定する。

・ICT機器のよさを活用し、個別最適な学びを展開する。(但し、手書きの大切さも併用。互いの補完性を維持。)

・言語環境を豊かにして、語彙指導に力を入れる。日常生活そのものの中に言葉があふれるようにする。

イ 重点的な取組事項—1 教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る。

【成果】・学習意欲の向上(分かりたい・できるようになりたい・やればできるんだ) ・授業態度の向上
・自学ノートの継続(自らすすんで学ぼうとする姿勢) ・発表力の向上 ・ICT機器活用の充実

【課題】・基礎基本の定着における個人差が依然として大きい。その日・その週の積み残しを少なくする手だてが必要である。

・自ら課題を見つけ解決していく力はまだ不十分で、鍛える必要あり。論理的に考え説明できる力も育てたい。

ウ 重点的な取組事項—2 児童が安心して学べる教育環境を整える。

【成果】・本校の特色を生かした活力ある教育活動の充実(運動会・持久走記録会・音楽会等の学校行事) ・スローガン「本気と感動」を!
・創立45周年における様々な取組の成功 ・居場所のある集団づくりの展開(縦割り班活動等の特別活動)

【課題】・「学校でしかできない学び」と「家庭において個で取り組める学び」をバランスよく組み合わせる学びを推進する。

・「人とかかわる活動」をさらに充実させていく。他者との違いに気づき、それを喜べる心を育てたい。

エ 重点的な取組事項—3 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

【成果】・学校行事への熱心な参加状況 ・Web回答の定着(欠席連絡・各種アンケート等) ・きらり祭・わんぱく会の成功
・情報発信の充実(学校だより・学級だより・ホームページ等) ・避難所開設における地域との連携

【課題】・双方向のコミュニケーションを大切にし、より深い連携を目指して学校づくりに取り組む。

・H&S活用のよりよい方法を検討する。(保護者への情報過多が周知徹底を妨げている現状の打破を図る。)

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度も本校教育活動へ多大なるご理解とご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。昨年度より徐々に復活してきた制限のない教育活動。今年度は、その環境を享受し、思いっきり教育活動を展開することができました。スローガンは「本気と感動」でした。どの学校行事においても、「本気と感動」にあふれた姿が「一体感」を生みました。中川東小学校の強みであると思います。よさであると思います。今年度は、創立45周年の年でもありました。5年前に誕生したマスコットキャラクター「きらりん」が大活躍しました。子供たちの中に学校を愛する心が深く根づいていることを感じることでできた嬉しい一年間となりました。それを支えてくださった保護者の皆様・地域の皆様の存在にあらためて感謝したいと思います。

(3) その他（学校教育活動全般について）

「一人一人を大切に教育」を掲げて教育活動を展開しています。保護者の皆様による学校アンケートに一番多く見られる文面は「すべての先生方が愛情をもって子供たちに接してくれている。」というものです。教職員一同、それらの言葉をありがたく思いながら、日常当たり前に行っている子供たちとの接し方をあらためて磨いていきたいと考えています。保護者の皆様や地域の皆様にも大いに支えられている本校です。子供たちを愛し、大切に思う温かい土地柄。課題解決のための豊かなコミュニケーション。私たちはこれを「本音トーク」と言って実践してきました。そこから生まれた数々の解決策がありました。「やる気いっぱい やさしさいっぱい やりとりいっぱい 中川東小」ますますの発展を期して前進します。